

いちご「スカイベリー」における、摘花による品質向上技術の確立

要約

頂花房から2次腋花房までの各花房を5花に制限して摘花を行った結果、頂花房と1次腋花房の果実糖度は対照よりやや高く推移し、食味も良好であった。しかし、2次腋花房以降では差はみられず、総収量も96%とやや減少した。したがって摘花は頂花房及び1次腋花房までが有効であると考えられた。

○ 展示のねらい

農業試験場いちご研究所で開発した「スカイベリー」は、26年度から一般栽培が始まり、栽培面積も増加傾向にあるが、高品質かつ安定した生産技術の確立が望まれている。そこで、食味の安定に効果があるとされる摘花技術について実証展示を行い、地域での高品質な果実生産の資とする。

○ 主な成果

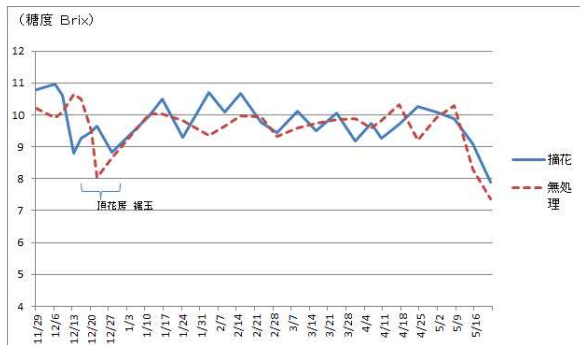


図1 糖度の推移

無処理区の糖度(図1)は12月下旬～1月上旬にかけて、頂花房の裾玉が収穫となる時期に大きな低下が見られたが、摘花区の方が無処理区に比べ低下の程度は少なかった。1月から2月までの厳寒期は摘花区がやや高く推移したが、3月以降(2次腋花房以降)では差はなく推移した。

表1 収量 (g/株)

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計	収量比
摘花区	8	128	143	212	377	149	184	1199	96
無処理区	7	137	179	343	343	143	86	1253	100

表2 官能評価

	人数
摘花区が美味しい	10
無処理区が美味しい	1
かわらない	2
計	13名

収量(表1)は無処理区の1,253gに対し、摘花区は1,199gとやや少なく、収量比は96%であった。

食味の官能評価(表2)では「摘花区は酸味もあって美味しかった」「無処理区は味がうすい」「先は摘花区が甘い」との意見があり、おおむね摘花区の評価が高かった。

○ 今後の方向性

摘花作業の負担を軽減するため摘花の実施時期を明確にするなど、より簡易な摘花方法について検討する。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班

TEL 028-623-2322

FAX 028-623-2315